

平成29年度第1回酒々井町総合教育会議 議事録

開催日 平成29年7月25日(火)

開催場所 役場中央庁舎3階会議室

出席者	町長	小坂 泰久	教育長	木村 俊幸
	教育長職務代理者	石井 國治	教育委員	林 洋子
	教育委員	村重 浩二	教育委員	浦壁 京子
事務局	教育次長	大崎 智行	総務課長	大塚 正徳
	政策秘書室長	越川 和章	こども課長	七夕 夕美子
	こども課副主幹	伊藤 雄三	こども課主事(書記)	渡邊 しほ

1 開会時刻 10:00

2 町長挨拶

3 議題

(1) 幼児教育について

(2) 児童生徒交流事業について

(3) その他

4 その他

5 閉会

6 閉会時刻 11:49

議事録

1 開会の言葉

七夕こども課長

ただ今より、平成29年度第1回酒々井町総合教育会議を開会いたします。

2 町長挨拶

小坂町長

皆さんこんにちは。町長の小坂でございます。教育委員の皆さんには日頃より大変お世話になっております。本日、平成29年度第1回酒々井町総合教育会議を開催することができ、嬉しく思っております。誠にありがとうございます。

本日の会議でございますが、議題にありますように、保育園を中心とした幼児に対する教育について、委員の皆様方のご意見をいただきたいと思います。

また、児童生徒交流事業ということで、様々な事業を教育委員会で実施していただいておりますが、新しい事業展開についてご提案を申し上げ、その上でご意見をお伺いできればと考えております。教育に関しまして、教育委員皆様のご意見をいただき、また、私の考えも申し上げながら、本日のこの会議が実りあるものとなりますようご期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

3 議題

七夕こども課長

続きまして、議題でございますが、酒々井町総合教育会議運営要綱第3条第2項により、議長は町長が務めることとなっておりますので、今後の議事進行は町長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

小坂町長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。議題（1）「幼児教育について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

（こども課長 説明）

小坂町長

事務局の説明が終わりました。

私から、若干申し上げます。

イタリアでは、アトリエスタと呼ばれる専門家と教育者が連動するカリキュラムがございます。酒々井町でも、これまで事務局から説明があったように、英語やお茶などに親しむ機会を作っていました。親御さんからは体操を学ばせたい、という要望もございました。本年度から導入をしております。こうした取り組みは、幼児期に人としての総合的な教養などを身に付けていただきたいと思います、という考えから行っているものです。

教育委員の皆さんは、幼児教育について、どのようなお考えをお持ちですか。

村重委員

私は、保育園に限定すると、岩橋保育園を認定こども園とすることが必要であると、個人的に考えています。

小坂町長

国はそのような方向を考えています。民設民営に対する助成は厚く、公立への助成は少ない状況です。町外に目を向けると、認定こども園化は進んでいます。小学

校に入る前の段階で、他市町村の保育園との差が出ないようにしていきたいと考えています。

林委員

酒々井町は、町長がおっしゃった施策など、非常に手厚い保育を実施していると考えています。卒園式にお伺いした際も、英語で歌を唄うシーンがあり、感動しました。保育園で学んだその先をさらに知りたい、と園児たちが思ってくれることを願っています。こうした学びを、日常生活の中に取り入れるためには、保育士の先生方に伝えるスキルが必要になってきます。それぞれの特色ある保育の際に、先生方も一緒に学んでいただくと、日常化が進むように思います。

小坂町長

日常生活に取り入れ、回数を増やすことが有効という面もありますか。

林委員

家庭において、茶道や書道や体操を教育していくのは難しいので、保育園でこれを学べるとしたら、大きなメリットであると思います。

小坂町長

回数を増やすことも有効です。また、茶道などにおいては、様々な流派というものがあるでしょうから、そういった面で違いを感じることも教育の側面と考えています。この他にも、中央台4丁目に順天堂大学の先生がお住まいになっていますが、先日、話したところ、跳び箱などの運動の指導は、マットなどの用具があればできるということですので、プラスワンといえますか、そうした本物の教育も可能性があるのかな、と考えています。

浦壁委員

そのようなお話を聞いたり、孫が通う保育園の話聞いて、一昔前と保育も変わったと感じます。3歳児からこのような経験が始まるわけですが、例えば5歳になったらワンランク上げた経験をさせることも必要になってくるのではないのでしょうか。また、茶道などにおいては、お手前の発表会をすることも貴重な体験になるものと考えられます。

小坂町長

入学前の準備という側面も大きい中で、町としてどこまで実施できるか。多くをぎっしり展開することで拒否反応があってもいけませんし、よく検討して進めたいと考えています。

石井教育長職務代理者

小さいときから様々な体験ができて、ありがたいことだと感じています。このような経験を進めるにあたり、設備面から保育環境は十分なのでしょうか。

小坂町長

岩橋保育園は、新耐震設計です。中央保育園は、木造建築で老朽化が進んでいます。給食室も狭い状況です。こうした中で、子育て支援施設の整備は検討課題となっています。

木村教育長

英語の幼児教育については、早く開始した方が良いという学者と、学力をつける

という面ではそれほど効果がない、という学者がいる状況です。私は、国際感覚を身につけるために、価値があると考えています。書道・茶道などは、日本文化の継承という面もあり、所作・姿勢などを含めた指導が重要と考えています。また、体操は、神経回路の形成、これを複雑にしていくために、幼児期は重要であると言われていています。

課題は、講師から保育士が多くを学んでいただき、日常生活の中でどのように子ども達に伝えていくか、ということになると思います。職員研修も必要になってきます。そうした中で、保育と教育の違い、資格の面などの課題も出てくると考えています。

林委員

基礎を学び、習ったことにさらに興味を持ってもらうことが必要です。茶には花がつきもので、茶を学びその空間にある花にも興味を持つ、そうした関連が続くと総合的に学べると思います。

木村教育長

確かにそのとおりですが、保育士には保育士の役割があるので、どこまで求めていくか、難しい面はあります。

小坂町長

保育士は、幼稚園の先生の資格を併せ持っている者も多くおります。本日、委員の皆さんから出たご意見を、議事録として見ることで、感じるがあると思います。こども課からも本日、そのような意見が出ていることを伝達してください。

それでは、概ねご意見もいただきましたので、幼児教育についてはここまでとし、議題（２）「児童生徒交流事業について」を議題といたします。

現在、教育委員会において、どのような児童生徒の交流事業が行われているか、委員の皆さんはすでにご承知のことと存じますが、あらためて、現在行われている各事業について、事務局から説明をさせていただきます。

（こども課長 説明）

小坂町長

事務局の説明がございました。

酒々井町は、明治22年の町村制施行後、一度も合併していない、いわゆる「日本で一番古い町」でございますが、酒々井町と同様の町が全国にもう一つありまして、それが群馬県長野原町でございます。利根川水系の水源地と利水地というつながりも含めまして、この長野原町との交流事業を行うことについて、ご意見を伺いたいと考えておりますが、長野原町がどのような町か、その概要について、政策秘書室長からご説明をさせていただきます。

（政策秘書室長 説明）

小坂町長

政策秘書室長から説明をさせていただきました。

私から、若干申し上げます。

長野原町の町長とは、話す機会があり、先方は交流事業に非常に興味を持っています。酒々井町と交流をしたいということでございます。現在、小学生の交流としましては、北海道陸別町との事業がありますが、もう一つ交流が増えても良いのかな、と考えています。委員の皆さんのご意見をお伺いします。

村重委員

水源地と下流の利水地との交流、良い企画だと思います。八ツ場ダムも動き出していますし、良い経験になるのではないのでしょうか。

浦壁委員

5年生がキャンプを中心とした交流を行う、というイメージですね。

越川政策秘書室長

長野原町が実施している事業に酒々井町の児童が参加した場合のイメージとして申し上げます。

浦壁委員

仮に町内の5年生を対象とすると、大人数での事業となります。

小坂町長

生涯教育事業とすると、参加者は限定されます。学校教育事業とすると、全員での実施ということになります。ご意見をいただく中で集約していければと考えています。

木村教育長

酒々井小・大室台小の校長には、現在、実施している小見川少年自然の家での宿泊行事との関係など、宿題を出しています。全員が揃って長野原町に行くとなると、校長の一存では難しいということで、保留になっています。

浦壁委員

陸別町、オーストラリアとの交流事業は、参加したくても参加できないケースがあると聞いています。可能であれば、全員一緒に交流できるのがよろしいかと思えます。そうなった場合、予算面はどうでしょうか。また、現行の交流事業との棲み分けも必要になってきます。

林委員

開催の趣旨をあらかじめ明確にしておきたいと考えます。何を達成するための事業なのか、今後、詳細を詰める必要があります。学校教育として実施する場合、酒々井小学校と大室台小学校と合同で事業を実施することは現行ないので、貴重な経験になるものと思えます。

木村教育長

予算面はどのように考えますか。

越川政策秘書室長

バス代などの交通費と宿泊代がメインになってくるものと考えられます。

小坂町長

学校事業として実施する場合は、小見川宿泊と同じように、また、生涯学習事業として実施する場合は、陸別町との交流と同じようなイメージになるのではないで

しょうか。

浦壁委員

スタート時期と期間はどのように考えていますか。

小坂町長

スタートは、平成30年度を想定しています。交流事業ですので、スタートして実際に交流してみて、期間等はその後検討していきます。

浦壁委員

交流事業が増えて、児童生徒にとって素晴らしいことですが、双方向の交流も必要と考えています。

小坂町長

酒々井町に来ていただいた際の交流も良いことです。今は、受け皿となる施設がない状況ですが、今後、コミュニティプラザを整備しますので、キャンプなども可能になっていくものと考えています。

木村教育長

仮に5年生全員で行くこととして、長野原町は受け入れ可能なのでしょうか。

越川政策秘書室長

5年生全員が行く前提で調整していないので、この場で確かなことは申し上げられません。先方に確認させていただきます。

木村教育長

行くとした場合、一泊二日を想定していますか。

小坂町長

小見川の宿泊学習は一泊二日でしたね。

木村教育長

長野原町は遠いので、十分な交流のためには、日数の検討が必要になります。

小坂町長

詳細については、諸調整が必要ですが、平成30年度事業としてスタートする方向で概ねよろしいでしょうか。

石井教育長職務代理人

オーストラリア、陸別町の次にドイツ、さらに長野原町、と充実しています。事務局の方々は大変でしょうが、ご検討をお願いいたします。

小坂町長

それでは、そのよう進めさせていただきます。こちらの職員も必要に応じて下見等の随行をさせますので、よろしくをお願いいたします。

以上で、児童生徒交流事業についてを終わります。

次に、その他に入ります。

その他につきましては、次回以降の会議についてですが、議題は教育大綱の策定について、を考えております。教育振興基本計画との関係等、協議する事項がございますので、あらかじめご承知いただきたいと存じます。

委員の皆さんからご意見がなければ、これでその他を終わります。

以上をもちまして平成29年度第1回酒々井町総合教育会議を閉会といたします。

す。

お疲れ様でございました。